

縁	世田谷区立砧中学校 校長室だより 令和4年11月21日 第43号 校長 大坂 崇		教育目標 「豊かな人間性の育成」 ◎ 集団生活における責任感と自主性を養う ◎ 健康な心身の育成と勤労の喜びを培う ◎ 基礎学力の充実を図り深く考える姿勢を育てる		
			社会性の学び	知的な学び	心と体の学び
			自他の尊重 地域貢献	主体的な学び 学習の定着	心身の健康

PISA「協同問題解決能力調査」 前

～「主体的・対話的で深い学び」と「グローバル化」～

平成30年に公表されたPISA「協働問題解決能力調査」。結果から何が見えるのでしょうか。

1 「協同問題解決能力調査」の問題から

友人2人(あかねさん、三郎君)と、架空の国の地理・人口・経済に関する問題を解くコンテストにあなたは参加しています。3人は、このコンテストについて、画面上のチャットでやり取りをしています。各問題であなたの解答を、コンピュータ上でクリック(択一形式)してください。

- (1) あかねさんが人口、三郎君が経済、あなたが地理を担当することに決めたが、あかねさんが地理の問題を1つ解いたことをチャットで知らせてきました。「1つ正解したわ、この調子でいきましょう」

あなたの解答 ① 時間がないよ。チャットで時間をむだにしないようにしましょうよ。

② 「地理」の問題に答えた人、よくやったね。

③ 「地理」の問題をほかの人が答えたから、僕は分野を変えるよ。

④ 私が「地理」の問題をやるはずだったのに。みんな、自分の選んだ分野をやろうよ。

- (2) いくつかの分野で解答し終わりましたが、まだ経済の分野が残っています。あかねさんがチャットでメッセージを送ってきました。「私のスコアカードは大丈夫？みんな調子はどう？」(下の表が画面に出ている↓)

あなたの解答 ① 君のは大丈夫だよ。僕のも大丈夫だよ。

② 良かった。もう少しでできるよ。

③ 「経済」以外はできてみたいだよ。

④ 他のチームスコアがわからないから、よくわからない。

スコアカード		
地理	人口	経済
✓	✓	
✓	✓	
✓	✓	

<解答> (例1) ④ (正答率 日本 13.7% OECD 平均 17.5%)

⇒正解の視点「共通理解を点検し修正する」

(例2) ③ (正答率 日本 27.2% OECD 平均 36.2%)

⇒正解の視点「行動の結果を点検し問題解決の進捗を評価する」

2 「協働」と「協調」

学習指導要領の「主体的・対話的で深い学び」の前提には注意が必要です。

日本では、無意識に「みんな仲良く、同じ目標に向かって」(協調)という話し合いになりがちです。

でも、現在の世界は、歴史や宗教、文化、政治体制、人種、信条、性についての考え方など、多様性の社会です。

「自分達には理解できない考え方の人とも、ギリギリのところで、決定的な対立を避け、折り合いをつけながら様々なことを行う」(協働)のが世界標準になってきています。

学習指導要領で「協働」が強調されるのは、「グローバル社会」が決して「バラ色の社会」でなく「厳しい社会」であるとの認識があると考えられます。対立を乗り越え、強く逞しく「生き抜く力」を育てることが目標です。

「主体的・対話的で深い学び」で求められるのは、他と協調する「順応力」ではなく、自分と他の違いを認め、自分の考えを伝え、互いの最善の妥協点を見出し、100%でなくても目標に向かって突き進む「対話力」です。

こう考えたとき、1の結果はどう映るでしょうか。(1)(2)とも「事実の確認」ですが、「協調」に慣れた私たちには、他人の間違いや仕事の遅れを指摘することが苦手なところがあります。

日本に住んでいる私たちにとっては、違和感を覚える解答かもしれませんが、方向性は「グローバル化」「協働」を示しています。